

フィンドレー大学奨学生レポート 11月 「Holiday を越えて」

サンクスギビング・ランチ (Thanksgiving lunch)

アメリカでは、毎年11月の第4木曜日がサンクスギビング (Thanks giving day) という休日になっています。調べたところ、この休日の由来は様々な説が存在していますが、英語クラスの教師の方から聞いた説を信じることにします。1600年代のある冬、イギリスから多くの開拓者がアメリカ大陸に上陸し、開拓していました。しかし、アメリカ大陸の冬は彼らには寒すぎ、皆が餓死してしまうのではないかと、というほどまで追い込まれていました。そんななか、開拓者を助けたのは、現地に元から住む原住民、すなわちネイティブアメリカンの人々です。彼らは、開拓者に食べ物を分け与えました。そして、翌年、開拓者たちは、ネイティブアメリカンたちに感謝の意を表明するため、彼らをディナーに招待しました。これがサンクスギビングのはじまりだそうです。そして、現在は、一年の中で、離れ離れに住んでいる家族が、一堂に会する日になっているそうです。

そんな中、フィンドレー大学のインターナショナルオフィス（留学生の手続きなどを行うオフィス）は、他国からやってきている留学生たちのために、「サンクスギビング・ランチ(Thanksgiving lunch)」という食事会を催していました。たまたま、英語のクラスの時間が重なってしまっていて、出席できないはずでしたが、ある教師の方が機転をきかせ、ランチを授業にしてくださいました。そこで、英語クラスのクラスメートと教師と、一緒に卓を囲み、サンクスギビング時に、アメリカの家庭で行われている伝統的なゲームを行いました。そのゲームは、**Thanksgiving** だけに、なにかこれまでに世話になっていて、ありがとう、と言いたいものを、アルファベット順に挙げていくというものです。たとえば、最初の人、感謝したい、A から始まるものや人を言うのです。もし、りんごやアップル社に感謝しているのだったら、アップル(**Apple**)でいいのです。そして、次の人は、前の人、感謝しているものも復唱(この場合なら **Apple**)し、さらに自分が感謝しているもので、次のアルファベット (この場合なら **B**) から始まるものを言わなければなりません。特に、時間制限や罰ゲームなどはなく、穏やかなゲームでした。しかし、私は、自分の番に、なにか面白い、もしくはユニークなことを言わなければいけない、という無言のプレッシャーを、勝手に感じていました。そして、ゲームが進行していくにつれ、どうやら私は、**H**からはじまる感謝しているものを、言わなければならないことに気づきました。頭に思い浮かぶ邪念を払いのけ、必死に思いを巡らしました。ついに、私の番になり、私は「**Homework!!** (宿題)」と叫びました。残念ながら、周囲の

反応は可もなく不可もなく。しかし、数人は笑顔を見せてくれたことを記憶しています。肝心のランチはといたしますと、ターキーこそありませんでしたが、ポテトなどをすりつぶしたマッシュポテト、さらにデザートにはパイをかじり、アメリカならではのサンクスギビングの食事を楽しみました。



ゲームに没頭するクラスメートたち

ホンダ・オハイオ工場見学

オハイオ州のメアリズビル(Marysville)という場所に、ホンダの生産工場があります。この工場は、日本の自動車企業で初めてアメリカでの生産を開始した、まさに、アメリカ大陸での日系自動車産業の草分けとも言える生産工場です。この工場に、たまたま訪問する機会を得ることができたため、工場見学へ行って参りました。この工場を訪れ、感じたのが、現地で製造業が作り出す莫大な雇用です。なぜなら、まず一つ目に、この工場の規模が大きいという点からです。この工場では、自動車の組立を行い、さらにすべての生産品を走行テストまで行うので、それはもう、大きいのです。そこでは、約 5,500 人の従業員の方が働いているそうです。また、オハイオ州には、他にもホンダの生産工場が 3 つあり、オハイオ州全体では、約 1 万人の現地の従業員と約 150 人の日本人の駐在員がいるそうです。二つ目は、自動車の部品を、ほぼ現地調達している点からです。ホンダの生産工場では、部品の約 8 割を現地の部品メーカーから調達しているそうです。自動車の製品は最終的には、一つですが、ひとつになるためには、数万個の部品が必要となります。その膨大な数の部品を現地調達す

るということは、ホンダの製造工場だけでなく、現地の部品メーカーでの雇用も増やすということになります。私がインターンシップを行っている NBO もその部品メーカーの一つで、そこでは、700 人以上の従業員の方が働いています。NBO で働いてきた経験と今回の見学から、ひとつの自動車企業が作り出した雇用、人々の笑顔、生きがい、つながり、などを考えさせられました。



オハイオ工場での記念撮影

(左から私、機会をくださった大熊さん、世話をしてくださった中村さん、
そして、同奨学生の荒瀬くん)